

1. 事業の位置付け

事務事業名	木谷實・星のプラザ資料収集事業		
事業担当	市民部 文化・交流課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等	文化芸術振興基本法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： まちづくり財団】		
目的・目標		事業の概要	
故木谷實九段とその一門や囲碁文化の魅力を紹介する資料を収集することにより、囲碁を通じた参加・交流・情報発信などが行われています。		囲碁文化の振興を図るため、故木谷實九段とその一門の足跡や人物像の紹介、囲碁を通じた参加・交流・情報発信などの資料を収集します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	収集資料調査件数			単位	件
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	3	5	5		
	実績	3	2	3		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	資料提供協力件数			単位	件
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	2	4	4		
	実績	2	2	1		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民ニーズや「文化芸術振興基本法」による規定、文化振興の安定性、継続性の確保の観点から必要性は高い。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業展開の改善を図りながら、有効性を高めていくことが必要です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の貴重な文化資源である囲碁文化の普及、振興の観点から目的、対象、内容ともに妥当性は高い。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業経費は、更なるコスト削減に取り組む必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		資料の収集	資料の収集	資料の収集
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	398	316	23
事業費 (A)		398	316	23
執行率 (%)		112.75	10.53	0.77
内訳	職員 (人)	0.50	0.50	0.45
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.05
人件費 (B)		4,196	4,196	3,933
フルコスト (A+B)		4,594	4,512	3,956

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている 事業活動が十分に出来なかった。	③: 遅れている 囲基資料の寄贈を受ける予定であったが、寄贈者の予定で次年度に繰り越したため。
	主な取組と成果	日本有数の「囲基コレクター」として知られる水口藤雄氏より木谷記念館に役立てて貰いたいとのことで、囲基資料約1万点が寄贈されるなど大きな成果があがった。	日本有数の囲基コレクターである水口藤雄氏より、木谷記念館に役立ててほしいとのことで、囲基にまつわる錦絵、古書等の資料が寄贈されました。	日本有数の囲基コレクターである水口藤雄氏の紹介により、木谷記念館に役立ててほしいとのことで、囲基にまつわる古書等の資料の寄贈が予定されました。寄贈者の予定で、寄贈時期が延期されて次年度に繰り越しています。その他、市民センター利用者より書籍、ビデオの寄贈を受け入れています。
検証結果		A: 成果があがった	C: 十分に成果をあげることができなかった	C: 十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。また、成果目標の資料提供件数は、提供者側の意思にかかっているため、協力を得るための方策等について検討が必要です。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。また、成果目標の資料提供件数は、提供者側の意思にかかっているため、協力を得るための方策等について検討が必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	出前図書館事業		
事業担当	社会教育部 中央図書館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	当面3～5歳児(将来的には市民全体に拡大)	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
子ども達が図書に触れ、読書の楽しみを知ることにより、創造力や思いやりを養い健やかに成長しています。		子ども達が読書を楽しみ健やかに成長するため、移動図書館車で児童施設などを訪問し、図書の貸出し、おはなし会などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	巡回回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	72	84	84		
	実績	66	72	69		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	貸出点数			単位	点
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	3600	4400	4800		
	実績	4308	4795	4284		
成果指標②	指標名	訪問施設数(幼稚園、保育園等)			単位	か所
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	12	18	15		
	実績	16	10	10		

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	図書館に来館しづらい方や子どもたちが図書にふれる機会が増えることから、訪問施設からのニーズはあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続して実施することにより、訪問施設も増え、図書館に来館しづらい方や子どもたちが図書にふれる機会も増えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	実績のある施設以外にも再度周知し、訪問箇所を増やすことで更に妥当性が高くなります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	出前図書館利用者が手にした図書は、施設で回収し、期限になると図書館で引き取りにしているが、施設職員の負担が大きくなっています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		児童施設などの訪問、図書などの貸出し	児童施設などの訪問、図書などの貸出し	児童施設などの訪問、図書などの貸出し
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	804	700	619
事業費 (A)		804	700	619
執行率 (%)		114.86	100.00	88.43
内訳	職員 (人)	1.15	1.15	1.20
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		9,650	9,650	10,028
フルコスト (A+B)		10,454	10,350	10,647

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	②: 若干遅れている 施設担当者の負担が多いため継続して実施する施設が減少しました。	②: 若干遅れている 施設担当者の負担が多いため継続して実施する施設が減少しました。
	主な取組と成果	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に16施設からの希望を受け実施したことにより、子どもたちが図書に触れ合う機会を増やすことができた。*	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に10施設からの希望を受け実施したことにより、子ども達が図書に触れ合う機会を増やすことができました。*	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に10施設からの希望を受け実施したことにより、子ども達が図書に触れ合う機会を増やすことができました。
検証結果		A: 成果があがった	B: おおむね成果があがった	B: おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増える。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要がある。	訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要があります。	訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるよう各施設を個別に訪問しPRを行うなど周知する必要があります。また、障がい者サービスと統合して事業の拡大を図っていきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	ブックスタート事業		
事業担当	社会教育部 中央図書館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	平塚市内在住の1歳未満の乳児・保護者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: ブックスタートボランティア】		
目的・目標		事業の概要	
絵本を通して豊かな子どもの心を育て、親子の絆が養われています。		絵本を通して豊かな子どもの心を育て、親子の絆を養うため、地域のすべての赤ちゃんと保護者に、「赤ちゃんと絵本を楽しむ時間の大切さ」を伝えながら、絵本を直接手渡します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ブックスタート実施回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	38	42	43		
	実績	42	43	43		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	ブックスタートに参加した乳児の割合			単位	%
	説明・算定式	参加した乳児数 ÷ 乳児総数 × 100				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	50	50	50		
	実績	44.6	47.3	49.3		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	実施により「赤ちゃんと絵本を楽しむ時間の大切さ」を体験していただき、豊かな心を育てられることから、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	常に対象者が発生してくるものなので、性質上継続して実施することで、着実に参加者も増えています。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	対象については、1歳未満の乳児とその保護者を対象とするが、この時期だからこそ乳児、保護者にとっても普及啓発を図る必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	ボランティアを募集し協働で実施しています。今後、ボランティアを組織化し、活動内容・役割分担などの一層の連携を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	3,279	3,045	2,578
事業費 (A)		3,279	3,045	2,578
執行率 (%)		75.78	70.37	59.58
内訳	職員 (人)	1.75	1.75	1.25
	再任用 (人)	0.05	0.05	0.05
人件費 (B)		14,856	14,856	10,618
フルコスト (A+B)		18,135	17,901	13,196

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しなかったが、予定どおり開催するとともに、個別渡しも15組と着実に参加者が増えつつあり、成果があがっている。	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくするとともに、事前申し込み不要の日を決めて実施をしました。個別渡しも12組と着実に参加者が増えつつあり、成果があがっています。	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくするとともに、事前申し込み不要の日を決めて実施をしました。個別渡しも18組と着実に参加者が増えつつあり、成果はあがっています。ボランティアの組織化はまだ出来ませんが、ボランティアの積極的な意見を反映して事業内容の改善が図られました。
検証結果		B: おおむね成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深める。	ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。	ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
地域の埋もれた情報を掘り起こし、発信することにより、市民の知的満足が得られています。		市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	行事開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	実績	319	320	372		
活動指標②	指標名	テキスト作成数			単位	部
	説明・算定式	教育活動用テキスト作成ページ数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	実績	171	170	240		
成果指標①	指標名	博物館行事参加者満足度			単位	点
	説明・算定式	5段階評価のアンケート				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	実績	4	4	4		
成果指標②	指標名	教育活動参加者数			単位	人
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	実績	6457	6066	7612		

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	自然から歴史まで多彩な行事が多く参加者を獲得し目標を達成しました。市民のニーズの高まりを反映しています。自然、歴史等環境資産は、不確実性が大きく、公の機関が保存と価値開発を担うことが求められます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	継続により、地域の状況変化の発見や、世代を超えた情報の伝承・定着等、効果が得られます。一方で「世界天文年」や日食など事業開催時の社会的環境に配慮し、欲求を読むことで市民満足度を高めました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>■ 受益者負担、補助額</li> <li>■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	自然や歴史に対する市民の関心を高めつつ、協働という形での調査実施により情報蓄積の成果をあげています。受益者は一方で活動に貢献しています。活動の専門性、魅力度担保のため、各分野1名の学芸員が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>■ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	研究活動で収集蓄積した情報、普及事業で得た技術を、業務に適した独自システムにより運用しています。各部門の情報・技術共有を進め、事業の効率化とコスト削減に努めました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高</li> <li>● 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	567	842	353
	一般財源	31,565	24,837	22,382
事業費 (A)		32,132	25,679	22,735
執行率 (%)		99.59	79.59	70.46
内訳	職員 (人)	3.85	3.85	3.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		32,306	32,306	32,171
フルコスト (A+B)		64,438	57,985	54,906

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して、特別展示室、講堂、科学教室、プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動、広報、出版活動等の充実を図った。プラネタリウムの投影は、市民向けに隔月にテーマを変え、幼児投影、学習投影を市内外の保育所・幼稚園、小学校の利用にも応じて開催した。「銀河鉄道の夜」の上映が大好評を博した。演劇公演2回、ライブコンサートを開催し、好評だった。*	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して、特別展示室、講堂、科学教室、プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動、広報、出版活動等の充実を図りました。プラネタリウムの投影は、市民向けに隔月にテーマを変え、幼児投影、学習投影を市内外の保育所・幼稚園、小学校の利用にも応じて開催しました。演劇公演2回、ライブコンサートを開催し、好評でした。*	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館として各種の行事を実施しました。野外での観察のほか、プラネタリウム、展示室等館内の設備を有効に活用しました。「世界天文年」に呼応した行事を実施し、多数の利用者がありました。プラネタリウムの投影は他施設より短期でテーマを変え、団体向けには年齢・利用目的に応じた内容で実施しました。共通テーマで人文自然両分野横断の連続講座を催したり、祭囃子に着目したイベント実施など、新しいニーズの開発も試み、成果がありました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		学芸員の世代交代がある際に、地域情報の受け渡しが円滑にできるシステムの構築を考え、そのなかで効率的に教育普及活動を推進する必要がある。	調査活動での市民との協働を進めます。さらに展示、普及活動などでの協働も深め、博物館と市民との情報共有に努めます。	退職等により学芸員の交代が発生した際に、資料およびその情報、事業実施のノウハウ等の引継が効率的に行われるよう、体制整備が必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	美術教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 美術館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	来館者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
小中学生や親子を対象としたワークショップメニューを充実することにより、参加者が増加しています。		美術教育普及活動を推進するため、ワークショップや市民協働のアートフェアを開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ワークショップ等開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	20	30	40		
	実績	30	46	42		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	ワークショップ等参加者数			単位	人
	説明・算定式	短期コース参加者数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	600	900	1050		
	実績	850	1006	1526		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	メニューによっては希望者が殺到し、要望にこたえるため回数を増やしました。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	美術教育活動への参加意識が強いため、メニューを充実させ、事業を継続して成果を上げます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	美術教育の普及促進と実践をするためにも必要な事業です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	若手芸術家を活用して講座を充実させます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		ワークショップの開催	ワークショップの開催	ワークショップ、アートフェアの開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	839	1,751	1,541
事業費 (A)		839	1,751	1,541
執行率 (%)		65.96	109.44	67.00
内訳	職員 (人)	1.65	1.65	1.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		13,846	13,846	10,445
フルコスト (A+B)		14,685	15,597	11,986

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	ワークショップのメニューを増やして30回の講座を行ったが、親子対象の講座はどれも好評であった。	ワークショップのメニューを増やして47回の講座を行い、親子対象の講座はどれも好評でした。ワークショップ参加者の作品を展示・発表するアートフェアを開催し370人以上の観覧がありました。	ワークショップのメニューに展覧会の関連事業を取り入れたりするなど42回の講座を行った結果、親子対象の講座はどれも好評でした。またワークショップ参加者の作品を展示・発表するアートフェアを開催し、180人以上の観覧がありました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施する。	ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施します。	ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施します。